

雪中鶴ヶ城散策～会津絵ろうそくまつり



会津若松市のシンボル、名城鶴ヶ城。季節によっていろいろな表情を見せてくれます。今日は冬の鶴ヶ城をぶらりと散策してみました。

お堀沿いを天守閣へ向かいます。どこも氷と雪で閉ざされ、一面真っ白です。



おなじみの散策コースも、見渡す限りの雪、雪、雪。



白く覆われた天守閣は、まさに大空にはばたく鶴を思わせます。



鶴ヶ城郭内の史跡も、いつもとは違った雰囲気です。

茶室麟閣



千利休の子・少庵が建てたと言われる茶室です。お客様がお茶を楽しめたり、定期的に茶会が開かれたりしています。戊辰戦争後、城下に移築され保存されていましたが、平成2年に元の場所である鶴ヶ城内へ移築復元されました。

荒城の月碑



昭和21年、作詞家土井晩翠氏を招いた音楽祭が開かれ、名曲「荒城の月」が鶴ヶ城と青葉城をモチーフに作詞されたことが氏によって明らかとなりました。翌年、有志により詩碑建設会が設立され、同年6月5日晩翠夫妻を招いた盛大な除幕式が行われました。この詩碑には晩翠氏直筆による荒城の月の歌詞が記されています。

鶴ヶ城稲荷神社



この稲荷神社は約600年前にお城が出来た頃から守護神として祀られてきました。（当時は別の場所にありました。）現在も広く人々の信仰を集めています。田中稲荷神社の分霊。伝説によれば、芦名直盛（初代城主）が田中稲荷神社に祈ったところ夢のお告げがあり、降り積もった雪に残った狐の足跡を目印として築城の縄張りを決め、名城を築くことが出来たと伝えられています。

市内に戻ると、各所に灯籠が準備されていました。

今夜は、会津冬のメインイベント「会津絵ろうそくまつり～ゆきほたる～」が開催されるのです。



会津絵ろうそくまつり～ゆきほたる～



会津伝統的工芸品の1つである、「会津絵ろうそく」。鶴ヶ城や御薬園をはじめ市内各所が、約7,000本の絵ろうそくのあかりに照らされて、「雪景色に浮かぶ会津幻影」が楽しめるイベントです。御薬園は「静」の世界、鶴ヶ城は「動」の世界、とそれぞれ異なった楽しみを体験できます。

鶴ヶ城では、会津本郷焼の瓦燈や会津塗り燭台で会津絵ろうそくを灯します。

（本年は2/10～2/11に開催されました。）



絵ろうそくに照らされた雪景色の鶴ヶ城は、まさに会津幻影に相応しい幽玄さに包まれていました。